

栃木県 日中友好協会 会報誌 知己

第9号

発行：栃木県日中友好協会青年部
河内郡上三川町大字
ゆうきが丘12-6
0285-52-1588

7月、栃木日中青年委員長の酒巻が留学を終え帰国しました

また行くの？ 2回目の浙江大学留学

今からちょうど3年ほど前、大学の交換留学プログラムで選んだ浙江大学。パンデミックにより長らく中止になっていた中国留学が解禁されたのは2023年の9月。私は第二外国語で選択していた中国語をもっと究めたいと思い、飛び出すように中国へ向かいました。あの頃はただひたすらに中国を知りたくて、また、自分の中国語がどこまで通じるのか試したくて、北京、ハルビン、重慶、青島、上海など有名どころをいろいろと旅していました。栃木県日中友好協会と出会ったのは、そんな楽しい留学を終えてからのことでした。協会の訪中団では、とてもありがたいことに、懐かしの杭州ほか、浙江省の各地をまわらせていただきました。そこでとあることに気づきます。自分はある年に長く中国に住んでいたのに、自分の故郷と密に交流を続けている浙江省のことをよく知らずに帰ってきちゃったんだな、と。それは前向きに捉えれば、もう味わいつくしたと思っていた留学にもまだ美味しいところが残っている、ということです。じゃあもう一回おかわりしようかな。2回目の浙江大学留学はそんなきっかけから志すようになりました。



そして2025年9月から先々月まで、私は再び浙江大学の学生寮に住んでいたわけです。留学中は勉学にも仕事にも励み、忙しさに辛くなってしまう日々もありました。しかしせっかくつくんだ2度目のチャンスですから、旅行にもたくさん行きました。省外にはもちろんのこと、前回の留学とは違い省内、市内もしっかりと見てまわり、浙江省内では9都市、杭州市内では良渚、臨安、千島湖、湘湖などです。「今の臨安は、南宋の都の臨安とは全然違う場所にあるのか」「千島湖に浮かぶ島は、単なる島ではなくてダムに沈む前の山頂なのか」「湘湖周辺は再開発真っ只中で、西湖に次ぐレイクサイドの観光地を目指しているのか」などなど、非常においしい勉強ができました。この程度で浙江省もとい杭州市に詳しくなったとは言いませんが、少なくとも3年前の自分よりかは、栃木がどんな場所と友好協定を結んでいるのかについて解像度が上がりました。留学をおかわりした甲斐がありました。まだ腹二分目くらいですので、またいつか長期にわたって中国に住みたいと思っています。最後に、協会の目玉イベントである訪中団が来年以降また実現できるようになることを祈りまして、文を締めくくります。

(文：酒巻大雅)

協会活動報告

こどもといっしょの夏祭り (2026/7/19)



副会長や多くの理事、会員たちの参加のもと、ライトキューブにてひと夏の思い出が実現しました！協会から子どもたちへは手作りの伝統的な日本のおもちゃをプレゼント。子どもたちの嬉しそうな様子が写真に収めました。

第8回 中国語スピコン 打ち合わせ (8/26)



滝沢理事長の召集のもと、理事や協会員が集まって打ち合わせを行いました。会場は文星芸術大学の大講義室で、真っ赤な広いステキな会場となりました。参加はもちろん、一般見学の方も大歓迎です！

第3回 栃木県日中卓球交流会 (9/12)

第3回栃木県日中卓球交流会



今年もたくさんの参加者が集まった卓球交流大会。卓球は未経験の方が多く、例年通り和気あいあいと参加者同士の交流を楽しむ会となりました。一緒に気持ちのいい汗を流せば、みんな立派な知己なんです。

数か月ぶりに理事会を開催いたしました



数か月ぶりの理事会が開催され、スピーチコンテスト他各種催し物についての情報共有や、各理事の近況報告を行いました。大島シズエ理事による「ああ、西湖」の素晴らしい歌唱を聞いて、心穏やかに解散しました。



こちらは栃木日中友好協会新設サイトのQRコードです。『知己』に載せきれない詳細な情報はこちらからご覧ください。お問合せや掲載依頼も随時受け付けております！

第8回中国語スピーチコンテスト

参加者募集

開催日時 2026年10月18日(日) 9:30~13:00
会場 文星芸術大学 B棟2階B209(大講義室)
住所 宇都宮市上戸祭4-8-15

栃木県内の中国語学習の普及と質の向上を目指し、学習者の交流を目的として開催いたします。初級者には朗読部門がありますので、ぜひ気軽にご参加ください！見学も歓迎です！

スピーチコンテスト

<朗読部門> 課題文を朗読

1. 高校生の部 2. 大学生の部 3. 一般の部

<スピーチ部門> 内容は自由ですが、友好が深まるもの(演題)をつける、時間は5分以内、原稿は事前提出。

1. 高校生の部 2. 大学生の部 3. 一般の部

応募方法 下記の問合せ先に連絡の上、参加申込書に必要事項を記入の上、EメールまたはFAXで申し込みください。

申込先 栃木県日中友好協会 申込締切 2026年10月9日

TEL 090-2324-8627(滝沢) FAX 028-636-8130

e-mail tochiginichu.sc@gmail.com

主催 栃木県日中友好協会

後援 文星芸術大学

毎年大盛り上がる中国語スピーチコンテストが、今年も開催されます。今回は文星芸術大学ご後援のもと、大きな会場で催される予定です。県内の多くの学生、社会人による中国語の素晴らしいパフォーマンスが見られるのはここだけ。協会員一同、楽しみにしております！

新疆ウイグル自治区に行ってきます！

2026年度 日中友好青年訪中団

中国・新疆ウイグル自治区訪問

訪中期間：2026年10月24日(土)～10月30日(金)

白石会長、成田事務局長の推薦のもと、青年委員長の酒巻が2026年度日中友好青年訪中団に参加し、新疆ウイグル自治区へ一週間訪問することとなりました。訪問先は、ウルムチ、トルファン、カシュガル(カシュガル)の三都市です。現地では遺跡や博物館などの文化施設を視察し、外交担当者のほか一般青年との交流も予定されています。帰国後は訪中体験や新疆ウイグル自治区についての勉強会を開催予定ですので、ぜひご参加ください！

栃木県日中友好協会事務局 連絡先

FAX : 0285-52-1588

E-mail : tochiginichu.jimukyoku@gmail.com

浙江の知己より

浙江省をこよなく愛する、
本誌『知己』編集メンバーによるコーナー。
彼らの語る中国を聞いて、現地に想いを馳せましょう。

どれくらい知ってる？浙江菜 (文：酒巻大雅)

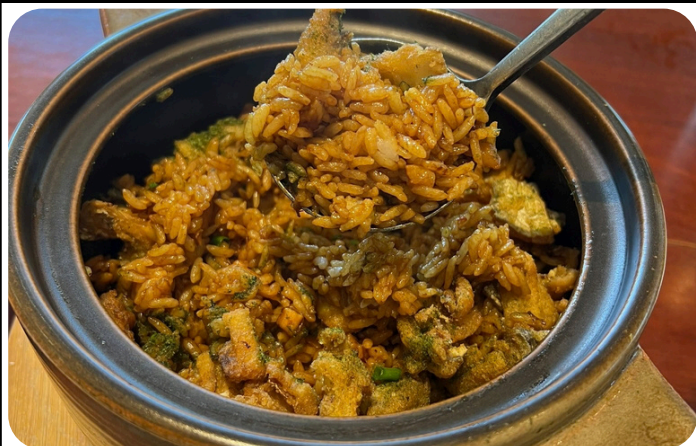


千島湖のイエージャオジャオ(野嬌嬌)

千島湖を旅行した際、お昼に立ち寄った地元の小料理屋で「ここでしか食べられないものをください」と注文すると、「それならイエージャオジャオがおすすめ！」と出されたのが右の写真。漢字では「野娇娇」と書くようですが、意味を尋ねても店員さんも分からず。AIによると、千島湖周辺の方言に由来する可能性があるとのこと。名前は謎ですが、味はおいしい！サツマイモの春雨に刻んだピーマンやニンジンと和えた料理で、春雨はまるで一反木綿のような形。食べ応えもバツグンです！

寧波のサンシェンミエン(三鮮面)

寧波を訪れた際に食べた、地元名物の三鮮面。三鮮とは、肉や魚介類などの新鮮な食材を組み合わせた料理のこと。お店によって具材は異なりますが、私が食べたのはエビやカニ、アサリ、青菜、卵などがたっぷり入った豪華な一杯。魚介の旨味が溶け込んだスープは意外にもあっさりしていて、最後まで飲み干したくなるおいしさです。海に面した寧波ならではの、海の幸を楽しめる麺料理でした！



舟山のダイユーファン(帶魚飯)

舟山で食べた帶魚飯。帶魚とは、日本でいうタチウオのこと。海に囲まれた舟山は海鮮料理が有名ですが、今回はちょっと珍しいご飯料理を注文。土鍋には、香ばしく揚げたタチウオと、タレの染み込んだご飯がぎっしり。魚の旨味がご飯全体に広がっていて、箸が止まらないおいしさです。ボリュームも満点で、お腹いっぱいになりました。タチウオといえば塩焼きや煮付けのイメージですが、ご飯と一緒に食べるのもいいものですね！





『知己』第9号編集 酒巻大雅 より

今回から、編集の都合上、『知己』の「浙江の知己より」欄の内容を変更いたします。従来は栃木県に縁のあるたくさんの中国人留学生のご協力のもと中国の紹介記事欄を作成していましたが、せっかくなら『知己』の編集メンバーももっと前に出ているのでは？と思い立ち、メンバー（主に青年委員会）が中国についてあれこれ語れるようなコーナーに変更することとなりました。今回はそのプロトタイプ作りということで私がめっちゃくちゃ出しやばりみたいな構成になってしまいましたが、今後いろいろな編集メンバーが各々の中国を紹介してくれる予定です。また、青年に限らず、一般会員の方やまだ協会に入っていないけど興味がある方などにもぜひ関わってほしいと思っています。一緒に会報誌を作って、栃木県日中友好協会を盛り上げましょう！

温州早餐もお気に入り

酒巻のお気に入り3選

1. ヌオミーファン(糯米飯)



糯米とはもち米のことで、蒸したもち米の上に揚げパンや肉そぼろ、ネギなどを乗せた料理です。日本でいうおこわに近いですが、温州の糯米飯は具材の組み合わせがなかなか独特。もちもちのご飯とサクサクの揚げパン、そこに甘辛い肉そぼろの味が加わって、これが意外にもよく合います。さらに、タレが染み込むことで味わいも一層豊かに。いろいろな食感を一度に味わえる、楽しいご飯です。

2. ジューザンフェン(猪臓粉)

名前の通り、豚の内臓を使った温州名物の麺料理です。つるつるとした米粉の麺に、豚の腸や血を固めたものなどが入っていて、見た目からしてなかなか個性的。モツの旨味が溶け込んだスープはコクがあり、食べ応えも十分です。ちなみに、中国では豚の血を固めた「猪血」も一般的な食材で、スープや鍋料理などによく使われています。日本では少し珍しい組み合わせですが、温州では朝ごはんとしてとても親しまれている一品。最初は少し驚くかもしれませんが、モツ料理が好きな人にはぜひ挑戦してほしいですね。



3. ショウロウワン(瘦肉丸)

こちらも温州の名物料理。名前に「丸」とありますが、日本の肉団子とはちょっと違います。豚肉とでんぷんを練り合わせた生地を小さくちぎって茹でたもので、つるんとした独特の食感が特徴！スープには酢や香菜、海苔などが入っていて、さっぱりとした味わいです。お店によっては唐辛子を加えることもあり、酸味と辛味の組み合わせが食欲をそそります。温州では朝食だけでなく、小腹が空いたときの軽食としても人気。見た目はシンプルですが、独特の食感がクセになる、温州庶民の味です。

